

## ncLaminin511

目次 #RP01025 1mL

### 製品概要

ncLaminin511（ラミニンとも呼ばれる）は改良型のリコンビナント ncLaminin511 であり、化学成分明確、動物由来成分不含、異種由来成分を含まない培養環境を提供します。フィーダー細胞なしで使用可能です。また、ncLaminin511 は LamininE8 断片に加えて、細胞接着活性部位（ヒトフィブロネクチンⅢ型の一部）を追加しており、フルレンジス Laminin、Vitronectin、Matrigel と比較して細胞の接着性を強化しています。これにより、幹細胞の培養に化学成分明確、動物由来成分不含、異種由来成分を含まない培養システムを提供します。ヒト多能性幹細胞（hPSC）、ニューロンなどの細胞の接着培養に使用されます。

### 製品情報

表 1： ncLaminin511 製品詳細

製品	規格	品番	保存条件
ncLaminin511	1 mL (100 µg / mL)	RP01025	-20 °C

### 使用説明

1. ncLaminin511の推奨濃度は0.5 µg / cm<sup>2</sup>です。6 ウェルプレートを例にすると、1 ウェルの面積は10 cm<sup>2</sup>であるため、5 µgのncLaminin511コートタンパク質が必要です。
2. 表 2 を参照すると、6 ウェルプレート 1 枚の総面積は 60 cm<sup>2</sup>であるため、コーティングには 30 µg の ncLaminin511 (300 µL、100 µg / mL) が必要です。ncLaminin511 は 300 µL (30 µg) / 管で分注し、-20 °C または -80 °C で保存します。使用時には 1 管の ncLaminin511 (300 µL、30 µg) を DPBS で希釈して作業液とし、6 ウェルプレート 1 枚分をコーティングできます。

表2: 培養容器別の ncLaminin511 の推奨使用量

容器	ウェル面積	ncLaminin511 使用量
6 ウェルプレート	10 cm <sup>2</sup> /ウェル	5 µg
60-mm 培養ディッシュ	20 cm <sup>2</sup>	10 µg
100-mm 培養ディッシュ	60 cm <sup>2</sup>	30 µg
T-25 フラスコ	25 cm <sup>2</sup>	12.5 µg

培養プレートのコーティング（6 ウェルプレートを例とする。他の培養容器にも適用可能）

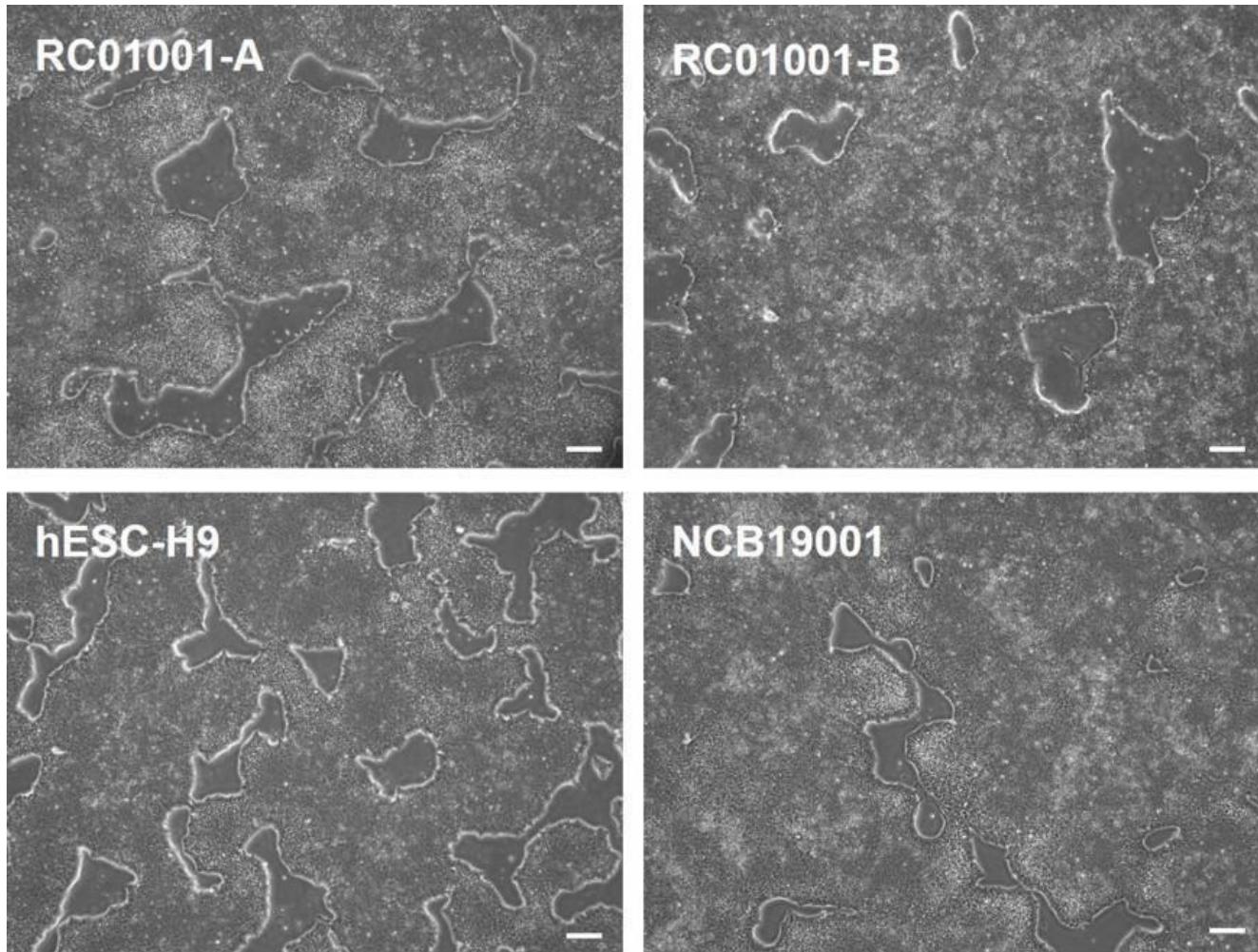
1. ncLaminin511 (300 µL、30 µg) 1管を室温 (15-25 °C) で解凍します。
2. 15 mL遠心管を1つ準備し、DPBS (Ca<sup>2+</sup> / Mg<sup>2+</sup>不含) 9 mLを加え、解凍したncLaminin511をDPBSに加えて軽く混和します（ボルテックス振盪は不可）
3. 希釀した ncLaminin511 使用液を用いて6 ウェルプレートを1.5 mL/ ウェルでコーティングします。
4. 培養ディッシュを軽く振り、希釀した ncLaminin511 使用液をディッシュ底の表面に均一に広げます。
5. 室温 (15-25 °C) で1 時間以上静置します。

**Tips :** すぐに使用しない場合は、ncLaminin511 使用液 の蒸発を防ぐために培養ディッシュを密閉します。コート済み培養ディッシュは 4 °Cで保存し、1 週間以内 に使用すること。使用時には、培養ディッシュを室温 (15-25 °C) で 30 分間復温してから次のステップに進みます。

6. 使用時には、培養ディッシュを傾け、ピペットまたはチップでコーティング液を完全に除去します。コーティング後の培養ディッシュ底の表面に傷がなく、また洗浄などの追加処理

が不要であることを確保します。

7. ncLaminin511は、ヒト多能性幹細胞（hPSC）やニューロンなどの細胞接着培養に使用されます。



ncLaminin511は、多種な多能性幹細胞（hPSC）の成長をサポート。

上図はRC01001-A、RC01001-B、H9とNCB19001の成長DAY4における細胞形態を示した。

hiPSC/hESC 培地を用いたNcEpic培養 スケールバー：200 μm